

史跡等の指定等

《史跡の新指定》 9件

1 ちやうじやまかんがいせきおよ ひたちのかいどうあと 長者山官衙遺跡及び常陸国海道跡【茨城県日立市】

日立市北部の洪積台地東端，標高20～25mに立地する奈良時代から平安時代にかけての官衙遺跡である。遺跡の東側の低地には，「目島」などの小字名があることから『常陸国風土記』に記され，弘仁3年（812）10月28日に廃止された「藻島駅家」が存在する可能性が指摘されてきた。日立市教育委員会による発掘調査により，幅5.5～6.7m（一部が最大16.5m以上に拡幅）の古代官道と考えられる道路跡に東接して，溝で区画された東西134～165m，南北110～116mの範囲の中から，8世紀中葉から10世紀代の掘立柱建物群と礎石建物群が見つかった。8世紀中葉から9世紀中葉の施設は12棟の掘立柱建物からなる。これらの建物はコの字型に配置されていると考えられ，中には同一位置で1～2回の建て替えが認められるものもある。一方，9世紀中葉以降の施設は，倉庫と考えられる8棟の礎石建物からなる。前者の施設は施設の立地や藻島駅家の存続時期が合致することから藻島駅家跡の可能性が考えられ，後者の施設は多珂郡正倉別院の可能性が考えられる。

長者山官衙遺跡は交通と密接に関わる官衙遺跡であり，常陸国北部における駅路とその周辺施設の変遷を示すだけでなく，古代国家の交通政策を知る上でも重要である。

2 やなせふたごづかこふん 築瀬二子塚古墳【群馬県安中市】

碓氷川左岸の河岸段丘縁辺部に築造された，古墳時代後期前葉の前方後円墳である。墳長80mで二段築成をなし，周囲には盾形の周濠・周堤・外周濠が巡り，古墳の全長は130mに及ぶ。墳丘には葺石が施され，平坦面及び墳頂部には埴輪が設置される。

埋葬施設は後円部に築造された横穴式石室で，玄室長4.07m，玄室幅2.32m，羨道長7.47m，羨道幅0.95m，全長11.54mである。羨道入り口側から階段状に2段下がって玄室に至る構造をなす。石室の大部分は川原石を用いて積み上げており，内面にはベンガラとみられる赤色顔料が塗布される。

明治12年（1879）の発掘により出土したとされる副葬品として，玉類，垂飾付耳飾，金銅製耳環，石製模造品，鉄刀，鉄鏃，小札，馬具，須恵器がある。埴輪には円筒埴輪，朝顔形埴輪，盾形埴輪などがある。

築瀬二子塚古墳は関東における最古段階の横穴式石室をもつ大型前方後円墳であり，そ

の築造に続いて群馬県域で広く横穴式石室が導入されるようになるなど、新たな埋葬施設と葬送方式の東日本への展開を考える上で重要な古墳である。

3 にいつゆでんかなづこうじょうあと 新津油田金津鉦場跡【新潟県新潟市】

明治7年（1874）から平成8年（1996）まで操業が継続した、近現代の石油の採掘・精製に関わる施設である。鉦場跡は新潟市中心部の南方約15kmに広がる新津丘陵の一角に所在する。同丘陵一帯では江戸時代既に採油事業が行われていたが、幕末に名主職と採油業を受け継いだ中野貫一（弘化3年<1846>～昭和3年<1928>）が、日本坑法に基づく採掘権を得て採油を始めた。当初は手掘りであったが、その後、上総掘り、綱式機械掘りを採用して事業を軌道に乗せた。明治40年（1907）頃、ポンピングパワー方式を導入して採油事業を拡大し、日本石油・宝田石油といった大手企業に次ぐ産油規模となった。鉦場跡には、上総掘り井戸、機械掘り井戸といった油井遺構をはじめ、採油の動力源であるポンピングパワー（大正7年）及び上屋（大正9年）が現存する。そのほか、動力を伝える継転機、集油所（明治40年頃）、送油所（大正6年）、各種タンク、加熱炉（昭和43年頃）、濾過池、旧木工所（大正13年頃）等が残る。我が国を代表する新津油田の一翼を担い、約120年間操業を継続した施設であり、採油から精製までの一連のシステムが良好に残る。我が国近代のエネルギー産業の発展を知る上で重要である。

4 うじこふんぐん 宇治古墳群【京都府宇治市】

西を宇治川、東を醍醐山地によって画された宇治川右岸域に築造された5基の古墳からなる古墳群である。

古墳群の築造は径46.5mの円墳である観音山古墳に始まる。続いて中期前葉に径40mの円墳である二子山古墳北墳が築造される。3基の埋葬施設から銅鏡、鉄製武器や農具などの豊富な副葬品が出土している。中期後葉には東西34m、南北30mの円墳である二子山古墳南墳が築造される。埋葬施設から銅鏡、鉄製武器、馬具、農具などが出土している。二子山古墳南墳に続いて径30mの円墳である瓦塚古墳が築造される。埋葬施設は礫槨と木棺直葬である。後期前葉には墳長112mで、二重の周濠を持つ前方後円墳である二子塚古墳が築造される。埋葬施設は横穴式石室である。

このように宇治古墳群では観音山古墳から瓦塚古墳という継続的な円墳の築造の後、突如として当該時期南山城地域最大の前方後円墳の二子塚古墳が築造される。これは、ヤマト政権中枢に近い南山城地域において、地域内での古墳の展開とより広域的な政治的動向

の両者を示す貴重な事例であり、古墳時代の政治的動向を知る上で重要である。

5 ばんどうふりよしゅうようしよあと 板東俘虜收容所跡【徳島県鳴門市】

第一次世界大戦中、ドイツとの戦争に伴い発生したドイツ兵俘虜（俘虜とは現在の捕虜のこと）を收容した施設であり、徳島県北東部の鳴門市内西部、あさんさんち阿讃山地南麓の南側に開けた扇状地上に位置する。大正6年（1917）4月の開所から大正9年（1920）4月の閉所まで約3年間、最大1千名余の捕虜を收容した。所内には、日本側の管理棟、将校用及び下士官以下の兵舎（しょうしや「廠舎」）、浴室・調理場・便所・病院・製パン所等のほか、捕虜自身が建築した施設も多数存在した。日本側は、ハーグ陸戦条約に則り、捕虜に対して人道的に対応し、管理者の運営方針もあって、スポーツや音楽、演劇、講演会等が活発に行われた。捕虜製作品の展示・販売や、地域における橋の建設、地域住民と行った生産活動や文化活動等を通じ、捕虜と周辺住民との間に交流も芽生えた。平成19～23年度に鳴門市教育委員会が廠舎や製パン所等の発掘調査を実施し、收容所の遺構が良好に残ることを確認した。捕虜の文化的活動等を物語る資料も豊富に残る。第一次世界大戦に関する遺跡として希少なものであるとともに、交戦国間における文化交流を象徴する遺跡として重要である。

6 あさくらすえきかまあと 朝倉須恵器窯跡 こぐまかまあと 小隈窯跡 やまくまかまあと 山隈窯跡

【福岡県朝倉郡筑前町】

小隈窯跡、山隈窯跡、やつなみ八並窯跡から構成される初期須恵器窯である。我が国の須恵器生産開始期において一元的な生産供給元と想定されていた大阪府の陶邑窯跡群の操業開始期すえむらに近い時期の、代表的須恵器窯として知られる。これまで、旧夜須町教育委員会、九州大学、筑前町教育委員会による発掘調査が行われてきた。小隈窯跡では、半地下式構造の窯跡7基、住居跡1基、工房跡2基、不明遺構1基、土坑2基等を検出した。山隈窯跡では4基の窯跡の存在が知られており、その周囲約800㎡の磁気探査・発掘調査によって、窯に伴う溝状遺構や灰原が確認され、窯跡の範囲が確定した。出土遺物より、古墳時代中期前葉から中葉（5世紀前半）にかけての加耶系初期須恵器生産から、中期後葉（5世紀後半）の陶邑系須恵器生産に移行する実態が明らかとなった。須恵器生産をいち早く開始

し、全国的な須恵器の定型化の影響を受けつつも新たな窯や工房を構築しつつ、九州北部の中核的須恵器窯としての役割を果たしたことが判明した。朝倉須恵器窯跡は、初期須恵器を供給する代表的須恵器窯の一つとして須恵器生産開始期の実態を示すとともに、その後、陶邑系須恵器生産を受容し定型化していく過程を一遺跡で知ることができる。朝鮮半島との交流を含め、我が国における須恵器の受容と展開を考える上で極めて重要な遺跡である。

7 ちくほうたんでんいせきぐん 筑豊炭田遺跡群

みついたがわこうぎょうしよいたこうあと
三井田川鉱業所伊田坑跡

しやかのおたんこうあと
目尾炭坑跡

きゆうちくほうせきたんこうぎょうくみあいのおがたかいぎしよおよ きゆうごれんしゅうじよも ぎこうどう
旧筑豊石炭鉱業組合直方会議所及び救護練習所模擬坑道

【福岡県田川市・飯塚市・直方市】

福岡県北部の遠賀川流域おんがに開発された、明治中期から昭和20年代にかけて、我が国最大の炭田であった筑豊炭田の遺跡群である。炭鉱経営は中央財閥、筑豊地方の有力者、小坑主によるものであった。筑豊炭田は明治30年（1897）には全国産出量の50%を超え、昭和15年（1940）を出炭量のピークとしてその後は漸減し、昭和48年（1973）までに閉鎖となった。三井田川鉱業所伊田坑跡は、筑豊最大規模を誇った炭坑跡で明治43年（1910）築の竪坑櫓1基と、炭坑節でも唄われた明治41年（1908）築の煉瓦煙突2基が残存し、竪坑の巻上機室や汽缶場の基礎などが確認された。目尾炭坑跡すぎやまとくさぶらうは杉山徳三郎が明治14年（1881）に筑豊で初めて蒸気機関による排水に成功した遠賀川沿岸の炭坑で、杉山が排水に成功した竪坑を覆うコンクリート製蓋や煙突基礎などを確認した。明治43年に完成した旧筑豊石炭鉱業組合直方会議所には、筑豊の炭坑経営者たちが集まり、採炭制限や保安対策などについて議論した。同組合の救護練習所模擬坑道は、大正9年（1920）に設置された煉瓦造と鉄筋コンクリート造のアーチ型の練習坑道で、炭坑の深部掘削を背景とした爆発事故に対応して作られたものである。石炭業を採炭、運搬、労働環境など多岐の面より理解する上で重要である。

8 しもふじ ぼち 下藤キリシタン墓地【大分県臼杵市】

戦国末期から江戸時代に形成された、当時の下藤村に居住していた多数のキリシタンを埋葬する墓地である。大野川支流の野津川左岸の尾根上のつに位置する。臼杵市教育委員会による発掘調査で南北35m、東西18mの範囲で66基のキリシタン墓、小規模な礎石建

物、道路跡が確認された。墓は未加工の石を配置したものと中世石造物の転用材を配置したものがあつた。墓坑内からは鉄釘や頭骨が見つかり長方形の木棺墓であると判断され、伸展葬であつたと考えられる。大友義鎮^{おおともよししげ}が天正6年（1578）にキリシタンに改宗する前後から、豊後国野津でもイエズス会士によって布教がなされ、数千人のキリシタンが誕生していったと記録される。フロイスの『日本史』にはリアンは天正7年（1579）頃に自分の屋敷地に教会を建て、その上方の山にキリシタンの墓地を作つたと記されているが、検地帳や字図の分析からリアンの屋敷地の場所が下藤村内に推定されており、その西方の山にある本遺跡がリアンの作つた墓地と考えられる。地上・地下遺構が良く残存しているキリシタン墓地であり、かつ、造立した人物や背景が明確な墓地として他に例がなく貴重であり、キリスト教受容のあり方を考える上で重要である。

9 ^{びんぬうたき}弁之御嶽【沖縄県那覇市】

琉球王国の時代、国王の健康や国家安穩の祈願等、国家祭祀の聖域として位置付けられ、国王自らの参拝や、代参が行われた拝所の一つである。弁ヶ嶽^{べんがだけ}ともいい、那覇市首里の東端^{しゅりじょうあと}、首里城跡の東方約1kmにある標高165.6mの丘陵に所在する。東西に走る道路を境に北側の大嶽^{うふたき}と南側の小嶽^{こたき}に分かれる。「神仙来賁降遊之靈地^{しんせんらいひこうゆうのれいち}」として、国王から民衆に至るまで「泰山北斗」のように仰ぎ尊び、多くの人々が参詣する御嶽とされた。正徳14年（1519）には、後に沖縄戦で大破する石門が建立され（『球陽^{きゅうよう}』）、嘉靖22年（1543）には参道を石敷道に改修し、沿道に松を植える整備が行われた（『国王頌徳碑^{こくおうしょうとくひ}』）。大嶽の神名は、「玉ノミウヂスデルカワノ御イベヅカサ」、小嶽の神名は「天子^{てだこ}」とされる（『琉球国由来記^{りゅうきゅうこくゆらいき}』）。小嶽には「天子」を拝む御拝所があり、その側には齋場御嶽^{せいふあうたき}の選擇所も設けられていた。18世紀代には首里城の風水に重要な場所であると認識されて松の植樹が行われ、「冕嶽積翠^{べんがくせきすい}」と称される景勝地ともなつた。平成25年度には那覇市が記録に残る大嶽の拝殿跡を発掘して石敷遺構を検出する等、遺構が良好に遺存することを確認した。琉球における祭祀の在り方と、その歴史的変遷を理解する上で重要である。

《名勝の新指定》4件

1 ^{はくさんこうえん}白山公園【新潟県新潟市】

新潟市の市街地中心部に位置する。新潟総鎮守白山神社に隣接し、元々は白山神社の

境内地であった。

明治5年（1872）に県令として着任した楠本正隆^{くすもとまさたか}によって造営が開始されたこの地は、信濃川越しに弥彦山^{やひこやま}や角田山^{かくたやま}、越後山脈を望む景勝地であり、以前から白山祭^{はくさんまつり}などでにぎわう新潟町民の行楽の場でもあった。明治6年（1873）に国内最初の都市公園の一つとして認可され、人々の憩いの場、集会等の場として利用されてきた。

東に「瓢箪池」^{ひょうたんいけ}、西に「蓮池」^{はすいけ}が造られ、瓢箪池と蓮池の間には明治11年（1878）に明治天皇の新潟県巡幸に合わせて造られた「美由岐賀岡」^{みゆきがおか}という築山がある。随所に景石や石燈籠を設置しているほか、造営の由来を示す「新潟遊園碑」をはじめ、多くの石碑が建つ。また、マツ類、ウメを中心に、ツツジ類、フジ等の樹木が植えられている。

白山公園は明治初期に造られ、その後空間構成を大きく変えることなく、現在まで維持されており、日本公園史における学術上の価値、観賞上の価値が高いことから、名勝に指定し保護するものである。

2 宇治山【京都府宇治市】

宇治川が峡谷から出て氾濫原低地を形成する地域は、往古より交通の要衝をなし、平安時代に貴顕の別業が数多営まれて以来、優れた名勝地として広く知られてきた。宇治山は、その谷口を巡って峰を連ねる仏徳山^{ぶつとくさん}、朝日山^{あさひやま}などを含む丘陵地の総称である。

古来より数多くの秀歌が詠み継がれ、『古今和歌集』（10世紀初頭）に収められ、『小倉百人一首』にも選ばれた喜撰法師^{きせん}の有名な「わが庵は都のたつみ^し然かぞすむ世をうぢ山と人はいふなり」をはじめとして、『新古今和歌集』（13世紀初頭）に収められた藤原公実^{きんざね}の「ふもとをば宇治の川霧たちこめて雲居に見ゆる朝日山かな」など、名勝地たる基層を育んできた。14世紀以降には紀行文・地誌等にも数多く取り上げられ、江戸時代後期から近代にかけては、『宇治名所古跡之繪圖』（江戸末期）などに見られるように、北西方から宇治橋を左中ほど手前に、平等院を右下に宇治山を鳥瞰する図郭で紹介されることが広く普及し、名勝地たる宇治の枢要を成した。

そのうち、今般は、宇治川右岸の仏徳山、朝日山、二子山に、興聖寺^{こうしょうじ}、宇治上神社^{うじがみじんじや}、宇治神社^{うじじんじや}、恵心院^{えしんいん}の境内地などを含む範囲を名勝に指定し保護するものである。

3 中山仙境（夷谷）【大分県豊後高田市】

国東半島の北西部、北に向かって流れる竹田川の中流域に所在し、東夷^{ひがしえびす}と西夷^{にしえびす}の2

つの谷からなる一帯の地域の総称で、その間にある独特な岩峰群からなる丘陵は中山仙^{なかやません}境^{きょう}と呼ばれている。

12世紀に六郷山寺院群の中山本寺^{なかやまほんじ}のひとつ夷石屋^{えびすいわや}の広大な境域として拓かれたこの地域は、江戸時代初期には衰微したが、18世紀以降、地元民の尽力によって回復し、文政2年（1819）には国学者・高井八穂^{たかい やつほ}が8つの優れた情景を見出し、和歌を添え「夷谷八景」を称えた。

中山仙境の風致景観は、尾根線上に連なる岩峰群によって特徴付けられ、最高所となる高城^{たかじょう}の頂部からは、岩林ともいうべき風景を周囲に臨み、遠く北東方には周防灘をも一眸に収め、展望の枢要を成す。東夷には、夷山霊仙寺^{えびすさんれいせんじ}、夷山実相院^{じっそういん}、六所神社^{ろくしょじんじや}の古刹が連担し、西夷には、線彫板碑^{せんぼりいたび}や梅ノ木磨崖仏などが中世以来の夷谷の信仰を伝える。東夷・西夷ともに、大きく縦に割れ目の入った兄弟割石^{きょうだいわりいし}と呼ばれる巨石があり、中山仙境を挟んで相互の強い結び付きを窺わせる。

古代以来の夷石屋に起源し、屹立した岩峰群の連なりは東夷と西夷の双方に臨んで優れた風致景観を固有に特徴付けているものであり、名勝に指定し保護するものである。

4 文殊耶馬【大分県国東市】

国東半島の北東部、東に向かって流れる富来川^{とみくがわ}の源流域に所在し、文殊山の中腹に位置する峨眉山文殊仙寺^{がびさんもんじゆせんじ}の境内地を中心として奇岩・岩峰群^{しやうりつ}が峭立する風景である。

「紙本著色文殊仙寺境内図^{しほんちやくしよくもんじゆせんじけいだいず}」（18世紀初頭）には、西方の文殊山頂を大嶽として最奥部に置き、並び立つ岩峰群に清滝^{きよたき}観音、紫竹^{しちく}観音、廣多^{ひろた}阿弥陀、竹堂^{たけどう}観音などが連なる様子のほか、本堂や背後の文殊岩、諸堂宇・塔頭の配置などが精緻に描かれ、北方を巡る牛角^{ぎゅうかく}、塀岩^{へいいわ}、笠岩^{かさいわ}、そして、境内正面の東方に大ブク・小ブク、エボシ岩などの岩峰群などをも含めた広大な境域が示されている。

江戸時代中期の思想家・三浦梅園^{みうらばいえん}（1723～1789）は、天明5年（1785）、文殊山に登ってその情景に深く感銘を受け、「眉の山集」（享和2年<1802>）において、獅子窟^{ししくつ}、甘露門^{かんろもん}、指月亭^{しげつてい}、華鯨楼^{かげいろう}、小角祠^{おづぬほこら}、龍王祠^{りゅうおうほこら}、仙人掌^{せんになしやう}、天女洞^{てんにようどう}、十里嶂^{じゅうりしやう}、濯花溪^{たくかけい}、聴猿巖^{ちやうえんがん}、霊鷲巖^{れいしゅうがん}、小門山^{おどむれさん}、玉女島^{ぎよくじよじま}からなる「峨嵋山十四境」を定めた。それらは、『大分縣社寺名勝圖録』（1904）にも示され、近代においても古刹の枢要として普及していたことを窺える。

古代以来の山岳寺院を中心とした奇岩・岩峰群からなる優れた風致景観で、近世・近代に見出された勝地の風情を今によく伝えることから、名勝に指定し保護するものである。

《天然記念物の新指定》 1件

1 ようろうがわりゆういきたぶち ちじきぎやくてんちそう 養老川流域田淵の地磁気逆転地層【千葉県市原市】

養老川が房総丘陵を侵食して露出した、第四紀前期更新世と中期更新世境界付近の砂泥質の地層（かずさそうぐんこくもとそう上総層群国本層）で、地球磁場の逆転現象の記録を良好に保存している。千葉県市原市田淵の養老川本流及びその支流では、砂泥層を主体として何枚かの火山灰層を挟み、層厚約60mが露出し、現在の御嶽山付近から飛来・堆積したびやくび白尾火山灰層（Byk-E）の付近で、地磁気の逆転が確認された。加えて、白尾火山灰層の噴出年代は約77万前と決められた。火山灰層と地磁気逆転が確認された地層が極めて隣接していること、前期更新世と中期更新世の境目は松山逆磁極期と現在の磁極期（ブリュンヌ正磁極期）との境界付近と定義されていることなどを踏まえれば、噴出年代と地磁気逆転の年代は誤差の範囲で一致すると考えられ、得られた年代は地磁気の逆転だけでなく地質時代境界の年代を特定するためにも意義がある。これらの一連の地層が露頭面上で容易に観察でき、火山灰層によって視覚的に確認可能でかつ年代が確認されている場所は他に例がなく、学術上極めて価値が高い。

《特別史跡の追加指定》 2件

1 ふじわらきゆうせき 藤原宮跡【奈良県橿原市】

持統天皇8年（694）から和銅3年（710）まで営まれた古代の都城跡。藤原京跡の中心部に位置し、約1km四方の区画内に内裏・大極殿、役所群が建てられた。北端部や南西部等で条件の整った部分を追加指定する。

2 くまもとじょうあと 熊本城跡【熊本県熊本市】

天正16年（1588）入城の加藤清正が築城した平山城で、加藤氏改易後は細川氏の居城。本丸、二ノ丸があり、宇土櫓をはじめ、多くの建物が現存する。上に上がる程そり上がる高石垣も特徴。桜の馬場地区と総構に位置する高麗門・御成道跡を追加指定する。

《史跡の追加指定及び名称変更》 2件

1 百舌鳥古墳群

いたすけ古墳
こふん

長塚古墳
ながつかこふん

収塚古墳
おさめづかこふん

塚廻古墳
つかまわりこふん

文珠塚古墳
もんじゅづかこふん

丸保山古墳
まるほやまこふん

乳岡古墳
ちのおかこふん

御廟表塚古墳
ごびょうおもてづかこふん

ドンチャ山古墳
やまこふん

正楽寺山古墳
しょうらくじやまこふん

鏡塚古墳
かがみづかこふん

善右エ門山古墳
ぜんえもんやまこふん

銭塚古墳
ぜにづかこふん

グワショウ坊古墳
ぼうこふん

旗塚古墳
はたづかこふん

寺山南山古墳
てらやまみなみやまこふん

七観音古墳
しちかんのんこふん

御廟山古墳内濠
ごびょうやまこふんないごう

【大阪府堺市】

↑

(旧名称)

百舌鳥古墳群
もずこふんぐん

いたすけ古墳
こふん

長塚古墳
ながつかこふん

収塚古墳
おさめづかこふん

塚廻古墳
つかまわりこふん

文珠塚古墳
もんじゅづかこふん

まるほやまこふん
丸保山古墳

ちのおかこふん
乳岡古墳

ごびょうおもてづかこふん
御廟表塚古墳

やまこふん
ドンチャ山古墳

しょうらくじやまこふん
正楽寺山古墳

かがみづかこふん
鏡塚古墳

ぜんえもんやまこふん
善右エ門山古墳

ぜにづかこふん
銭塚古墳

ほうこふん
グワショウ坊古墳

はたづかこふん
旗塚古墳

てらやまみなみやまこふん
寺山南山古墳

しちかんのんこふん
七観音古墳

大阪湾に面した台地上に所在する4世紀後半から6世紀前半にかけての超巨大前方後円墳から小円墳等で構成される。列島の古墳時代を考える上で重要な古墳群。現在17基が史跡に指定されている。今回、5世紀前半と考えられる御廟山古墳の周濠部分を追加指定し、名称を変更する。

2 いよへんろみち 伊予遍路道

かんじざいじみち
観自在寺道

いなりじんじゃけいだいおよ りゅうこうじけいだい
稲荷神社境内及び龍光寺境内

ぶつもくじみち
仏木寺道

よこみねじみち
横峰寺道

よこみねじけいだい
横峰寺境内

さんかくじおくのいんみち
三角寺奥之院道

【愛媛県南宇和郡愛南町・宇和島市・西条市・四国中央市】

↑

(旧名称)

いよへんろみち
伊予遍路道

いなりじんじゃけいだいおよ りゅうこうじけいだい
稲荷神社境内及び龍光寺境内

ぶつもくじみち
仏木寺道

よこみね じ みち
横峰寺道

よこみね じ けいだい
横峰寺境内

さんかくじおくのいんみち
三角寺奥之院道

伊予国（愛媛県）に所在する四国八十八箇所霊場をめぐる遍路道。今回、第三十九番札所延光寺から土佐（高知県）・伊予国境の松尾峠を経て第四十番観自在寺に至る観自在寺道のうち、国境より伊予側約1.5km分を追加指定し、名称を変更する。

《史跡の追加指定及び一部解除》1件

1 石清尾山古墳群【香川県高松市】

香川県中央部の瀬戸内海に近い山塊に立地する古墳時代前期の積石塚前方後円墳、積石塚双方中円墳等10基で構成される。古墳の成立を考える上で重要な古墳群。今回、既指定地で錯誤のあった3基の古墳の一部の指定を解除し、新たに内容が明らかとなった積石塚4基を含む7基を追加指定する。

《史跡の追加指定》24件

1 阿津賀志山防塁【福島県伊達郡国見町】

文治5年（1189）の源頼朝軍の奥州遠征に備えて奥州藤原氏方が造営した防御施設。阿津賀志山中腹から阿武隈川にかけての約3.2kmにわたり築かれ、当時の土木技術や防御思想を知る上で重要。条件が整った部分を追加指定する。

2 箕輪城跡【群馬県高崎市】

群馬県の榛名山東南麓に広がる独立丘陵上に位置する城跡。1500年頃に有力国人の長野氏により築城され、永禄9年（1566）に落城後、武田氏、織田氏、北条氏、徳川氏によって利用された。本丸、二ノ丸、郭馬出などがあり、今回は新曲輪を追加指定する。

3 埼玉古墳群【埼玉県行田市】

8基の前方後円墳と、1基の大型円墳からなる古墳群。前方後円墳はいずれも特徴的な

方形の二重周濠を持ち、古墳時代中期末以降の地域における首長墓築造の実態を良好に示す。墳長66.4mの前方後円墳である奥の山古墳の周濠部分を追加指定する。

4 しんぶくじかいづか 真福寺貝塚【埼玉県さいたま市】

北西部の低湿地に向けて開口部を有する東西160m、南北180mの半円形の盛土遺構を持つ、縄文時代後晩期の集落遺跡であり、北東部には地点貝塚が分布する。今回、条件の整った部分を追加指定する。

5 さとみ ししろあと 里見氏城跡

いなむらじょうあと 稲村城跡

おかもとじょうあと 岡本城跡

【千葉県館山市・南房総市】

房総半島南部を治めた戦国大名里見氏の拠点となった城跡群。稲村城跡は16世紀前半に義通が、岡本城跡は16世紀後半に義頼が居城とした。今回、岡本城跡のうち湊として機能したと推定される入江の南端域の平坦部を追加指定する。

6 むさしふちゅうくまのじんじやくふん 武蔵府中熊野神社古墳【東京都府中市】

立川段丘面上に立地する、7世紀中葉に築造された上円下方墳。1段目は一辺32m、2段目は一辺23m、3段目は径16mで、2段目と3段目に葺石を施す。7世紀における武蔵を代表する首長墓であり、古墳時代終末期の墓制を示す重要な事例。

7 じんだいじじょうあと 深大寺城跡【東京都調布市】

15世紀末及び16世紀前半の戦国時代、おうぎがやつうえすぎし扇谷上杉氏の拠点として機能した城跡。扇谷上杉氏系の築城技術を残す城跡として希少で、土塁・空堀等が良好に残る。今回、第2こぐち郭虎口周辺部、第3郭虎口・空堀の隣接地点等を追加指定する。

8 おだわらじょうあと 小田原城跡【神奈川県小田原市】

いせ そうずい伊勢宗瑞（ほうじょうそうん北条早雲）が攻略し、小田原北条氏代々の手で関東支配の拠点として整備・拡張がなされた城跡。近世には有力譜代大名が配された。本丸、二ノ丸、八幡山古郭、三ノ丸、総構などから構成される。今回、総構の小峯御鐘ノ台大堀切東堀の一部を追加指定する。

9 たちばなかんがいせきぐん 橘樹官衙遺跡群【神奈川県川崎市】

7世紀後半における評^{ひょう}の役所の可能性のある建物の出現から、郡家の成立及び廃絶に至るまでの経過をたどることができる希有な遺跡。7～10世紀の地方拠点の実態とその推移を知る上で重要。今回、条件が整った部分を追加指定する。

10 きゅうにいがたげいかん 旧新潟税関【新潟県新潟市】

安政五か国条約に基づき明治元年（1869）開港した新潟に置かれた運上所（税関）で、明治2年建築の庁舎が現存する。我が国近代の外交・貿易を知る上で貴重。今回、荷揚場遺構、造成盛土に伴う地業と考えられる遺構が見つかった部分を追加指定する。

11 みのこくふあと 美濃国府跡【岐阜県不破郡垂井町】

濃尾平野西端に位置する、古代美濃国の中心となった官衙遺跡。美濃国は三関の一つである不破関を管轄する重要国。正殿や東西脇殿の検出された国庁跡、東方官衙跡、国庁南辺から延びる南北道路跡などが検出された。条件の整った部分を追加指定する。

12 おわりこくぶんじあと 尾張国分寺跡【愛知県稲沢市】

愛知県北西部の濃尾平野中央部に所在する古代尾張国の国分寺跡。塔、金堂、講堂の位置が確認され、寺域は東西約220m、南北約300mで出土遺物から、8世紀後半から9世紀後半まで存続していたと考えられる。今回、既指定地の周辺部分で条件の整った部分を追加指定する。

13 へいあんきゅうせき 平安宮跡

だいりあと
内裏跡

ちやうどういんあと
朝堂院跡

ぶらくいんあと
豊楽院跡

【京都府京都市】

延暦13年（794）、桓武天皇が長岡京に替わる都城として造営した平安京の宮殿跡。天皇の居所である内裏跡、政務が執り行われた朝堂院跡、国家的饗宴が催された豊楽院跡などからなる。今回、豊楽院の清暑堂跡の一部を追加指定する。

14 たんぼこくぶんじあとつけたりはちまんじんじやあと **丹波国分寺跡附八幡神社跡【京都府亀岡市】**

奈良時代，聖武天皇の発願によって全国に建立された国分寺の一つ。発掘調査によって塔跡，金堂跡，講堂跡，僧坊跡，梵鐘鑄造遺構等が見つかった。今回，既指定地沿いの地点を追加指定する。

15 ふるいちこふんぐん **古市古墳群**

こむろやまこふん
古室山古墳

せきめんやまこふん
赤面山古墳

おおとりづかこふん
大鳥塚古墳

すけたやまこふん
助太山古墳

なべづかこふん
鍋塚古墳

しろやまこふん
城山古墳

みねがづかこふん
峯ヶ塚古墳

はかやまこふん
墓山古墳

のなかこふん
野中古墳

おうじんてんのうりょうこふんがいごうがいてい
応神天皇陵古墳外濠外堤

はちづかこふん
鉢塚古墳

やまこふん
はざみ山古墳

あおやまこふん
青山古墳

ばんしょやまこふん
蕃所山古墳

いなりづかこふん
稻荷塚古墳

ひがしやまこふん
東山古墳

わりづかこふん
割塚古墳

からとやまこふん
唐櫃山古墳

まつかわづかこふん
松川塚古墳

じょうがんにやまこふん
浄元寺山古墳

【大阪府藤井寺市・羽曳野市】

大阪府の東南部に所在する4世紀後半から6世紀中葉にかけて形成された，巨大前方後円墳から小型の円墳・方墳等で構成される。列島の古墳時代を考える上で重要な古墳群。現在20基が史跡に指定されている。今回，墓山古墳のなかで条件の整った部分を追加指

定する。

16 かわちでらはいじあと 河内寺麿寺跡【大阪府東大阪市】

生駒山地の西麓部標高27mの緩傾斜地上に立地する7世紀中頃に創建され、14世紀に廃絶した四天王寺式伽藍配置をとる古代寺院跡。金堂跡に西接する部分を追加指定する。

17 ひらのつかあなやまこふん 平野塚穴山古墳【奈良県香芝市】

7世紀後半に築造された古墳。埋葬施設は玄室長3.5m、玄室幅1.5m、玄室高1.76m、羨道長さ、0.97mの横口式石槨で、二上山産の凝灰岩切石を用いる。大和における横口式石槨を用いた古墳として、古墳時代終末期の墓制を考える上で重要。

18 ふじわらきょうあと 藤原京跡

すざくおおじあと
朱雀大路跡

さきょうしちじょういち にぼうあと
左京七条一・二坊跡

うきょうしちじょういちぼうあと
右京七条一坊跡

【奈良県橿原市】

持統天皇8年（694）から和銅3年（710）まで営まれた古代の都城跡。中心にある藤原宮跡は特別史跡となっている。朱雀大路跡は宮の正門である朱雀門から南へ延びる道路跡で、それを境に西側を右京、東側を左京に区分する。今回、左京七条二坊跡で条件の整った部分を追加指定する。

19 わかやまじょう 和歌山城【和歌山県和歌山市】

紀の川河口部に位置する、紀伊徳川家の居城となった平山城の近世城郭。虎伏山とらふすに天守を設け、その東に本丸があり、これらの廻りに二の丸、西の丸、砂の丸、南の丸を配置し、高い石垣と内堀で画する。砂の丸の南に位置する扇の芝の一角を追加指定する。

20 やましるふたごづか 山代二子塚【島根県松江市】

出雲東部の意宇平野を望む茶臼山西麓に6世紀後半に築造された前方後方墳。墳長94m、二段築成で幅5～7m前後の周溝を持ち、円筒埴輪や子持壺が出土している。前方後方墳という名称が初めて使われた古墳時代後期西日本最大級の前方後方墳で、学史的にも極めて重要。

21 ^{おきこくぶんじけいだい} 隠岐国分寺境内【島根県隠岐郡隠岐の島町】

柱根を保護するための根巻瓦を有した金堂と考えられる大型の掘立柱建物と、鐘楼と考えられる総柱建物からなる、隠岐群島の島後^{どうご}に所在する8世紀中葉の国分寺跡。元弘の変により後醍醐天皇が流された際の行在所としても重要。

22 ^{たかまつじょうあと} 高松城跡【香川県高松市】

天正16年(1588)、讃岐の大名となった生駒氏が築城し、寛永19年(1642)に入部した水戸徳川家初代頼房の長子・松平頼重によって改築され、以後、高松松平氏歴代の居城となった城跡。今回、東の丸及び中堀の一部、大手下馬所跡を追加指定する。

23 ^{おにのいわや} 鬼ノ岩屋・^{じっそうじこふんぐん} 実相寺古墳群【大分県別府市】

別府湾に面した所に所在する古墳時代後期から終末期にかけて営まれた7基からなる古墳群。九州的な装飾と構造を持つ横穴式石室と畿内的な構造を持つ横穴式石室が近接して造営され、九州におけるヤマト政権の関わりを知る上で重要。今回、条件の整った部分を追加指定する。

24 ^{せいふあうたき} 斎場御嶽【沖縄県南城市】

琉球王国における最も重要な聖地。琉球の開闢神^{かいびやくしん}アマミクが創設した御嶽の一つとされ、国王が巡幸し、^{きこえおおきみ} 聞得大君の^{おあらお}御新下りも行われた。今回、御嶽に参詣する際、清めに用いられたウローカー及び^{うじょうぐち}御門口に至る参道を含む部分を追加指定する。

《名勝の追加指定及び名称変更》 1件

1 アマミクヌムイ【沖縄県国頭郡今帰仁村・南城市・浦添市・那覇市】

↑

(旧名称)

アマミクヌムイ (アマミクの杜^{もり})

^{な きじん} 今鬼神ノカナヒヤフ (テンチジアマチジ) 及び^{うたき}こは^{うたき}おの御嶽 (クバの御嶽)

^{く だか} 久高^{むい}コハウ森 (久高のフポー御嶽^{うたき})

調査研究により特定された13か所11地域のうち、既指定の3か所2地域に、「^{せいふあうたき}斎場嶽

(^{せいふあう たき}齋場御嶽)」、「^{いそ}ゑぞゑぞのいしぐすく・金ぐすく (伊祖グスク)」及び「^{びんぬ うたき}弁之御嶽」の3か所3地域を追加し、併せて指定名称を「アマミクヌムイ」に変更する。

《天然記念物の追加指定》 1件

1 ^{いざきばな たいせきこうぞう}猪崎鼻の堆積構造【宮崎県日南市】

猪崎鼻の多種多様な堆積構造・生痕化石は、深海底で地震などをきっかけに堆積した地層の典型を良好に保存しており、当時の古環境や堆積の仕組みを知る場所として大変貴重である。今回、条件の整った部分を追加指定する。